

混迷の明日に

多田龍介

◆ 目次

情念でなく	5
初夏の贈り物	8
推しはかる	10
君の見た悪夢	12
混迷の明日に	14
こういう姿勢で	15
被膜の間	18

勉強する	20
正直に言う	22
薬眠	24
私説・経過報告	26
ジョバンニへの応え	28
粗品	30
休日の朝に	32
あとがき	34



## 情念でなく

男の本当に嫌だと

思うことは

つまるところ

殴って黙らせるしか

知らないからだ

懲罰的な意味などない

GMに不具合報告

対処、治らない

不自由抱えつつ過ごす

更新と共に治る

どうするか

停電が起きてしまう

まあいつか、で

投げる

作品



## 初夏の贈り物

芝居がかったことを言えば

サブイボが出る

僕の気持ちは

音楽が

代弁してくれる

コメンテーターに腹を立て

付度報道、反省もなく

我ぞ晴眼、ついてこい？

うらやましいじゃないか

僕にもやらせい

ビールうましや  
うましやビール  
そのビール券  
ルビートの輝き  
ありがとう

## 推しはかる

こう困難な時期が続くと

人々がしたいのは

分別よろしく振舞うよりも

発狂すること

なのではなからうかと

いう気もする

ずっと以前からそうなのだ

とってミサイルは打ち込まない

普通はね、普通は

大衆はまた分別の側から

それを裁きたい

戒めと自戒を込めて

ああ、俺じゃなくてよかったと

半分胸をなでおろし

絶対に許せないですよね

とはコメントター

許せなかったらどうするんですかと

僕は問いたいのであり

ちゅどくんだけは

避けていただきたいのだ

なにとぞ

## 君の見た悪夢

精神科が出張ってきたらこうなると。先の戦と同じ学びか

絶対に負けなと言ひ犯される、裏病棟の見えない隅で

極小の地獄は始め家にあり。子に振るわれた暴力の跡

その惨事それはミクロでこれマクロ。敷衍ふえんさせれば戦争にしか

あいつらの鼻を明かしてやりたいと。世界はもつと複雑だけど



## 混迷の明日に

どうした、もう書かないのか弱虫と。はい書けません書きません

きみとの意見は平行線、僕は閉口するばかり

わからない、から黙っている。主導権から身を引いて

映像で見れば零れ落ちるものがあるんだ、人の心も

どこをか一つ患者にして終えられる戦でないことも

核がある原発があるワクチンも先端技術が聞いて呆れる

## 「」という姿勢で

もう健常者いやあだあゝ

なんで

だって健常者の言うとおりにしてたら  
こんなことになっちゃったんだぜ

じゃ、お母さんもイヤなのかい

お母さんは僕の相手してるから  
もうとつくに健常では……ゲフンゲフン

二十歳超えた大人の行動の自由を親であれ恩師であれ制限するのはおかしいと君は言われる、そうだが、これは保安処分の向きが強いしかし笑っていいともをやったころのタモさんが、気軽に旅行に行けたかというと、こういうものなのかもしれず。こうして僕らは社畜ゾンビにヒキゾンビになつて

ただ自分のために作ればいいんだ  
苦勞して作つて食の細くなつた

父母にいらなと言われても  
かっちゃんなんて怒らない

人のためなんて思うから  
そんなに怒ってしまふ  
自分の食べたいもの  
好きなものを作る  
これがいいんだ  
そして食べて  
飲んで寝る  
何の話か  
ご飯の  
話だ  
よ

## 被膜の間

飲めないと痛し悲しで日が暮れて

場が荒れてつべこべ言われる筋もない

イライラも家で完結してるから

エンタメを盗みしスパイカメラかな

我が心、皮膚一枚で守りしを



## 勉強する

PCの箱を前にして

この部屋で僕は神様になるんだよ  
と妄言を放った君

邪魔するやつは指先一つで  
ダウンというわけだった

しかし今

やはり最後は

殴り合いの憂き目を見て

やっぱり大切なのは  
技術じゃないよ、君  
人間だよ、と  
ひとり言ちるのだった

正直に言つと

会いたい人とか

まずいない

そんな僕に

会いたいと言う

君の気持ちは

どんなにか

ねっとり

魅力的に

映っているのか

知るすべもない

僕はといえは  
僕には毎日  
会っていますので  
鏡の前の  
くたびれた顔

## 薬眠

どうですか、調子は  
はい、特に変わらず  
変わらないはず  
あるかいや  
いいの

変わらない  
といえど変わらない  
薬で平らに  
なった心に  
悲しいって言う

先生も僕より若く  
修羅場を超えて  
行けるだろうか  
修羅場を作らぬ  
たゆまぬ努力

## 私説・経過報告

なるほど、ロシア君の蛮行は許されない  
どう見る、やはりコロナ禍に端を発する  
乱心と見るべきだろう

そこでチャイナ君、ここへ  
ウイルスを漏らしたことで謝って  
故意か過失かは問いません、さあ

そしてメリカ君、ここへ  
ワクチンの普及で謝って  
愚民一掃の意図があったかはい

そして締め付けられ妄動した

ロシア君、謝って

先生はまだあきらめてないから

言葉はこうと行動する者に

届かないかもしれない

けれど私は狂人の翻訳者として  
少し書きたい

## ジヨバンニへの応え

「……僕はもうあのさそりのようにほんとうにみんなの幸さいわいのためならば僕のか  
らだなんか百やべん灼やいてもかまわない。」  
「うん。僕\*だつてそうだ。」<sup>1</sup>

君の体が百べん灼やかれたら

君の父母がどれだけ悲しむことか

また君の信奉者がどれだけ悲しむことか

それのどこがほんとうの幸なのか

僕もまた同じ決意を持つてことに当たり

一、二度、灼かれてみて思うことは

一度たりとも灼かれてはならない

ということですね

だって灼かれるって、ん〜ごいことなんだよ  
ん〜ごいことでしょうな

もう誰もそんな目に遭わないでいいように  
人に幸多かれ

\*1 『新編 銀河鉄道の夜』 宮沢賢治著 新潮文庫 平成元年六月十五日発行

216頁

29

## 粗品

俺は今

戦禍を最小限にくいとどめているんだっ  
そういうと僕は

湯船につきり

晩酌の用意を

僕が飲むことと

君が病むことの間

何らかの相関が

あるだろうか

ある

惚れた男の

失墜する様を見て

人が泣かずにおれようか

しかしそんな関係が

あつてはならないと思う

## 休日の朝に

遠く異国の地で戦争があつても  
今朝思ふのは朝食のことばかり  
それでも僕は遠くに思い馳せる  
なぜと行って悲惨の悲くらしいは  
知っているからだ、しかしだ  
やはり赤魚を焼き大根下ろしで  
などと考え、そして一杯をとだ  
普通に行っているしかできないよ  
普通じゃないかもしれないけど  
それでいいと思う。またそれが  
うらやましいと感じるだろうと

ああ、平和が一番。平和が一番。

## あとがき

この詩集は二月から五月にかけてネットに投稿したものをまとめて作った。四六判のデータで組んでみた。並べ方は十四編中最後の二編を除いてシヤツフルで決めた。わりと偶然性に頼ることがある。

世界情勢が不安の一途をたどる中で書かれた。人事を尽くすことはもちろんだが、生き残れるとしたら多く運も必要になるだろう。というくらい危機感を詩人の想像力は喚起してしまうのだった。そういうわけでシヤツフル。面白い味わいが出ていたらうれしい。

手に取ってくださった方に感謝である。では、皆さんの無事を願って。

二〇二二年五月二十一日

多田龍介

混迷の明日に



著者 多田 龍介  
発行者 多田 龍介  
発行所 明水工房

令和四年五月二十二日  
初版発行

©Ryusuke TADA 2022

